

羅 針		盤		達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①文武両道を日々心がけて学校生活をすごしている生徒が70%以上である。	A	A	A	コロナ禍の中での様々な活動における制約がある中でも、多くの生徒が文武両道の実践に向けて努力していたが、生活のリズムが乱れてしまった生徒も見られた。	・生徒自身が文武両道を目指すことは大切だと思う。「文武」＝「学習・部活動」に限定せず、学校生活全般と捉えた方がよい。・コロナ規制の緩和後、生活リズムの正常化に期待したい。	学習・部活動それぞれに目標をたて、1日の中での文武両道の実践に向けて日々愚直に努力することの大切さを粘り強く指導していきたい。	
		②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的に行っていると答える生徒が80%以上である。	A	A	A	多くの生徒が挨拶・清掃活動にしっかり取り組んでいると回答している。「五常の教え」については、折に触れ生徒に語りかけ、意識を高めている。	・生徒の数値が高く、「五常の教え」が浸透し、実践できていることを感じた。・普段の沼高生を見て、挨拶・清掃もしっかりできている。・取組を評価する具体的な指標があるとよい。	「五常の教え」を引き続き教育活動の柱にしなが、学校生活のあらゆる場面で、生徒の意識をより高めていきたい。	
		③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が90%以上である。	A	A	A	目標の90%には達していないものの、多くの生徒、保護者が規則正しい食生活を送っていると回答している。	・生徒、保護者の評価が目標値の90%に到達するよう各家庭への情報発信の工夫が必要である。	保健体育科や家庭科の教諭や養護教諭、保健安全部と連携しながら、家庭に対して食育に関連する情報を提供し、組織的に対応していく。	
		④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。	A	A	A	学校行事や部活動等に制限がある中でも、多くの生徒が学校生活に充実感をもって過ごしていると回答しているが、若干その率が下がっている点には注意が必要と思われる。	・結果の数値が高く、生徒にとってよい学校なのだと思う。・学校行事をとおして沼高の楽しさを知り、好きになってほしい。・来年度の沼高祭は最後なので、地域を巻き込んで盛大に実施してほしい。	生徒が充実感のある学校生活を送れるよう、学習面、学校行事、部活動等の充実を図り、特に次年度は5年ぶりの沼高祭を成功させ、生徒の自己肯定感の高揚を目指す。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤学習上の疑問に先生が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	学校生活の授業前後や昼休み、放課後と担任や教科担当の先生方が面談の時間を確保し、生徒の実態を把握したり、教科の質問に対して回答したりした。	・結果の数値が高く、丁寧な指導がなされていることを感じた。・担任や教科担当教諭の面談時間の確保など組織的な支援体制が充実している。	各教職員が生徒との質問等のやり取りの時間を十分にゆとりをもって確保できるように、各行事内容を精選したり、業務の効率化をはかる。	
		⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。	A	A	A	数学科と英語科で少人数・習熟度別の授業を展開し、生徒の実態を把握しながら教材や授業進度を調整し、きめ細かい指導を実施していた。	・理解度の格差を是正する指導の一環としてきめ細かい指導の実施を継続してほしい。	基礎力診断テストなどを利用し、幅広い学力層をしっかり把握した上で、その実態に対応した適切な指導を実践する。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦授業で学習した内容の理解を深めるために、PDCAサイクルを意識して、家庭で学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。	C	C	C	本年度第1回と比較してそれぞれの数値は高くなっているが、依然として生徒・保護者と教職員との間に意識の隔たりがあった。	・「学習に向かう動機付け」の具体的な支援・指導方法を学校全体で共通理解をもち、実践することが急務である。・月々の自己評価をグラフ化できるようなシステムを導入してほしい。	LHRの中で生徒が自らの学習姿勢を振り返る時間を確保する。基礎力診断テストなどの結果を参考にしながら、適切な時期に二者面談を実施し、学習に向かう動機付けを支援する。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。	A	A	A	今年度より各学期始めに設定された二者面談週間だけでなく、年間を通じて学級担任による個人面談を実施しており、生徒一人一人に応じた指導ができています。今後も継続していきたい。	・生徒と向き合う時間が確保され、その効果も表れていて、よい取り組みだと感じた。・「めんどろ見の良い学校」の基本条件である二者面談の更なる充実・発展を期待する。	高校生活への適応指導が十分になされるよう、今年度から始まった二者面談週間に更に充実したものになるように検討を進める。	
		⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。	A	A	A	学年会議や分掌会議で生徒の情報共有ができています。会議以外の場面でも職員間のコミュニケーションを図り、生徒の些細な変化も見逃さないような組織づくりをさらに進めていく。	・会議はもとより会議以外の場面での職員間のコミュニケーションをはかる具体的な方策を検討するとよい。	各会議で出た情報をしっかりと共有し、生徒への指導に生かしていく。迅速で適切な指導や支援ができるように、教職員間の連絡・報告・相談活動を充実させる。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	⑩いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である。	A	A	A	いじめ案件への対応については、早期に対応し、校内委員会によって組織的に対応できた。また、校内研修を行ったが、内容の充実を図りたい。5月・12月の強化月間では、HPや一斉メールを活用し、学校の取り組みが保護者へ見えるように工夫した。継続したい。	・引き続き早期発見・早期対応に努めてほしい。・「いじめ防止プログラム」や校内委員会において保護者の意見等を反映できる仕組みづくりができればよい。	いじめ案件の教員による抱え込みや些細な変化を見逃さないようにするため、継続的な研修を行っていく。また、組織的対応が素早くとれるように、日頃からの情報共有を密に行っていく。	
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。	A	A	A	ほとんどの生徒が遅刻をすることなく登校しているが、欠席者が多かった。コロナの影響で、体調不良の場合は無理をさせないようにできてきているが、自己の心身の健康管理ができる生徒を育成していくとともに、不登校生徒の対応についてさらに研修を行ってほしい。	・校内の人だけでなく、地域の人へも挨拶ができるようになり、社会の一員としての自覚を持ってもらいたい。・生活リズムを乱さないように家庭との連携も重要である。・不登校生徒と転退学者の増加の結びつきの実態把握、分析が必要である。	不登校生徒が増加しているため、生徒の変化を見逃さないよう意識していき、適切な声かけができるように組織的に対応していく。挨拶についてはほとんどの生徒がきちんとできているので、今の校内の雰囲気や大事にしていきたい。
			⑫月に2回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。	A	A	A	担任の働きかけや定期的なカウンセラー便りの効果もあり、例年より保護者のカウンセラー相談が増えた。今後も継続していく。	・不登校生徒には、事情を考慮した上で、リモート授業を許可してほしい。授業の遅れが退学につながらないようにすることが必要。	気になる生徒へ相談の働きかけを積極的に行っていくとともに、PTA総会や学年保護者会などで保護者への周知を行っていく。
			⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	A	A	A	二者面談期間だけでなく、日頃から担任による面談によって、生徒からの信頼を得られている。生徒の変化を見逃さないよう、職員間の情報共有も引き続き充実させたい。	・機会を得た生徒への声かけを継続してほしい。・生徒の数値が高く、教職員の生徒に寄り添った指導を感じた。	日頃からの声かけや二者面談を大切にしながら、個々の生徒に応じた適切な指導・支援ができるよう心掛ける。情報共有を密にして、適切な場面での声かけができるようにする。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。	A	A	A	感染防止に努めつつ、概ね計画通りに実施できた。進路指導の核である担任による二者面談も、年間を通して実施できた。大学模擬授業、共通テスト事前指導等で、対面とオンラインの併用も進んだ。	・対面とオンラインの併用のバランスが今後の課題である。・沼高への入学人数を増加させるためには、大学への進学率が大きく関わる。進路指導の充実をさらに図ってほしい。	生徒が段階的に進路意識を高め、主体的な進路実現ができるよう、3年間を見通した進路指導を組織的に展開していきたい。コロナ対応で得た新たな方法や課題についても精査し、より効果的な進路指導を研究・実践していきたい。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。	A	A	A	今年度からはChrome bookを活用しエナジード社の教材を使用し、「考える力」や「実現力」といった部分に焦点をあて探究活動を取り入れた。初めてのデジタル教材で、トラブルもあったが無事に計7回を終了した。ただ、来年度は、デジタル教材を使用せずゼミ活動に戻し、生徒が主体的に探究活動に取り組めるように計画をたてていきたい。	・ゼミ活動形式の是非の検討及び研究や研修が必要と思われる。・方法はいろいろあると思うが、「考える力」、「実現力」を高める「総合的な探究の時間」の改善を今後も続けてほしい。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況や新一年生の新課程もありデジタル教材を導入したが、結果として今までのゼミ活動がよいとの声が多かった。よって、来年度は4月当初よりゼミに分かれての活動に戻す流れとなる。4月当初からのゼミ活動開始は係の負担が多いが、なるべく早めにアンケートをとりゼミの振り分けを進め確定するようにしていきたい。
	⑯模擬試験を有効に活用し、進路決定に役立てている生徒が70%以上である。		B	A	B	模擬試験を主体的な進路実現の柱と位置づけ、生徒自身の学力把握、課題発見に活用した。教職員も模試分析を行い、職員会議、学力検討会等で情報共有を行い、その結果を教科指導、漫談に活用した。	・第1回の職員の評価が低かったが、第2回はだいぶ上昇した。改善策を生かした結果だと思う。・沼高生の学習している姿を塾や図書館等で見かける。今後も頑張してほしい。・進学の形態が多様化している中、本校に関しては評価できる。・主体的な学びの支援・充実をお願いしたい。	生徒の多様化に応じた模試の選定・実施・活用を引き続き研究していきたい。難関大学の個別模試についても希望者対象に実施していく予定である。また、公務員試験に対応した指導も適切に展開していく。	
9 保護者に積極的に進路情報の発信をしていますか。	⑰保護者対象の進路学習会が有意義だと感じている保護者が70%以上である。	A	A	A	外部講師を招いた1,2学年の保護者学習会を10月にオンラインによる配信で実施した。また、渉外部と連携した全学年対象の保護者進路講演会を外部講師を招き7月に実施した。	・保護者へ提供する進路情報に係る内容の精選が必要である。・コロナ禍での実施で、方法を工夫したことがわかった。保護者を大切にしていることも感じられた。・生徒も一緒に受講し、家庭で同じ認識を持つことも必要である。・変化する情報や初めての保護者のためにもオンラインの配信でもとてもありがたい。	保護者が参加しやすく、各学年の状況に合った保護者学習会、保護者進路講演会を展開できるよう、日時の設定、内容の精選を検討していく。外部講師の活用も進め、HP、進路通信等も活用し、保護者へのわかりやすい進路情報の発信を進めていきたい。		

群馬県立沼田高等学校(全日制) 学校評価一覧表② (令和4年度版) (様式2)

V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑧PTA 総会やPTA 保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。	A	A	A	PTA 総会と第2回公開授業は3年生の保護者の出席のみを対象に実施し、決議については書面決議で実施した。1・2学年保護者学習会は、オンラインによる配信で実施した。	・コロナ禍でのPTA総会開催等の在り方の検討を要する。・コロナ禍でなければ学校評議員にも参加させてほしい。	コロナ感染症予防対策をしっかりと講じながら、安全・安心に配慮して確実に実施できるように粛々と準備を進める。引き続きオクレンジャーを活用し、保護者への連絡を徹底する。
		⑨図書館、桔梗館の一般開放に満足している参加者(生徒保護者を含む)が70%以上である。	B	B	B	3割の保護者が「分からない」を回答しているため、A+Bの数値がやや低くなっている。実施に向けてはしっかりと準備できている。	・沼高図書館のユニークでオリジナルな情報及び桔梗館展示品の詳細などの外部への周知、併せてPTA、同窓会等との支援体制を図る必要がある。	図書館・桔梗館一般開放日について、保護者や地域の方々に学校Webページや回覧物などを通して、実施日時等の内容を流布する。
		⑩Web ページに掲載された情報やオクレンジャーの連絡が役に立っているとらえる生徒保護者が70%以上である。	A	A	A	学校 Web ページを利用し学校生活の様子や生徒の活躍を発信したり、オクレンジャーを利用して保護者への連絡を確実に行ったりした。	・危険な情報などは子ども経由だと時間差があるので、オクレンジャーは非常に助かる。・本校の取り組みは県内でも大変評価できる内容である。・引き続きWeb ページの内容の充実にも努めてほしい。	地域社会や保護者に新鮮な役に立つ情報を確実に発信できるように、学校 Web ページ内の内容について再検討し、それに対応した校内の業務分担体制を確立する。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICT を活用した指導を行っていますか。	⑪ICT を活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	A	A	A	出席停止の生徒向けにリモート授業を行っているが、一部の生徒からは画面が見づらく、黒板の字がほとんど見えないとの指摘があった。	・リモート授業における課題の把握、検討を行い、ICT を活用したよりよい授業形態を模索してほしい。・リモート授業中に不定期に出席確認ボタンを押すなどのシステムを取り入れることも必要ではないか。	ネットゲームやSNS など、一人一台端末の不適切な利用を防止するために、校内の使用ルールを再度検討していきたい。リモート授業においても、対面と変わりなく授業が受けられるように、支援策を考えていきたい。
		⑫ICT 機器を使った授業が70%以上である。	A	A	A	ICT 機器の活用をテーマとして、校内の授業見学会を実施し、職員同士で積極的な意見交換を行っている。ほぼ全ての教科において、Google Classroom 上で授業の連絡や課題の配信等を行っている。	・連絡や課題配信等の一方向だけでなく、インタラクティブなICT機器の活用に努めてほしい。・ICT を活用して授業している授業の様子が見たかった。・教科書、教材のデータ化をさらに進めていただきたい。・ネットワーク環境の更なる強化を期待する。	Google Classroom を学習ポートフォリオとして定着させるために、連絡や課題配信だけでなく、学習の振り返りやデータの蓄積等にも活用していきたい。
	12 ICT を活用した業務改善を行っていますか。	⑬ICT を活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	A	A	A	帰りのSHR 廃止に伴い、生徒玄関に連絡掲示板モニターを常設した。また、Google Forms やメール機能を利用して、保護者からの欠席連絡や緊急連絡に対応している。	・HPやYouTube での配信状況をもっと小・中学校へPRしてほしい。下の世代やその保護者たちに生徒達の活躍が認識され、自覚と責任も生まれるのではないかと。・「帰りのSHR廃止」の功罪の検証が必要である。	オクレンジャーや学校HP を活用するなど、各種アンケートの回収率を上げるための方策を考えていきたい。

※A 十分達成できた B 達成できた C もう少しで達成できた D 達成できなかった